



## ▶ 栃木県最初の県庁は栃木町に

明治政府は1871年に江戸幕府以来の藩の制度をやめ、県を置きました。「廃藩置県」です。下野国には当初複数の県が設置され、その後栃木県と宇都宮県に整理されました。1873年には栃木県に統一され、県庁は栃木町に置かれました。

県庁の庁舎はまわりを堀（県庁堀）でかこまれ、巴波川から直接舟が着くように県庁の堀と巴波川をつなぐ堀（漕渠）もつくられました。大通りには36基のガス燈が設置され、学校や銀行など文明開化を象徴するものが次々にできるなど、栃木町は県庁所在地として急速に近代化していきました。

ところが1884年、県庁は宇都宮に移りました。宇都宮のほうが県の中央に位置し、交通が便利であることが理由の一つです。



◀ 旧栃木県庁舎（片岡写真館蔵）



## ▶ 舟運から鉄道・車へと主役が交代

1872年に日本初の鉄道路線が新橋駅-横浜駅に開通。鉄道の時代の幕開けです。栃木町でも1888年に両毛鉄道（今のJR両毛線）が開通。町には自動車も走り、1926年にはバスの運行も開始されます。1929年に東武鉄道日光線が、1931年には東武鉄道宇都宮線が開通しています。一方でこれまでの輸送を支えた舟運は衰退していきました。



▲ 2代目栃木駅舎（明治43年）（片岡写真館蔵）

## ...column 教えて!とち介...



### 産業の発展で「公害」の問題はなかったの？

「足尾銅山鉱毒事件」という大きな鉱毒災害事件がありました。

足尾銅山は明治時代に産出量が急増し、周辺の環境が悪化。鉱毒をふくんだ土砂が渡良瀬川に流れこみ、流域の農民が大きな被害を受けました。栃木県選出の衆議院議員・田中正造は、流域の農民とともに鉱山操業停止と補償を求めて鉱山側と激しく争います。政府は1903年に、洪水の予防と鉱毒を底に沈ませるための遊水地建設を決定。谷中村の村民は立ち退きすることになりました。



田中正造銅像▶

## ▶ 時代の変化に対応

明治時代から、大きく生活や産業が変化していきます。人々の暮らしでは、髪形や衣服、食べ物などが洋風に変わっていきました。農業では、麻の栽培、外国産品種の導入、農業技術の改良、新たな用水路や水車がつくられました。工業では、石灰や岩舟石の採掘が始められ、鍋山町や岩舟-藤岡町に人車鉄道（人がレール上の貨車を押す鉄道）がしかれました。味噌や醤油、瓦、石灰、生糸、藍等の産業に加え、麻、ヨシやその加工品が作られ、各町の中心街でこれらの商売が行われました。また、1921年には栃木町に洋館風の役場が建てられ、大平町では1944年に軍隊で必要とされるものをつくる大規模な工場がつけられました。



栃木町役場と県庁堀（今の栃木市立文学館）